

謹賀新年

2015年一元旦

医療法人財団 東京勤労者医療会

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

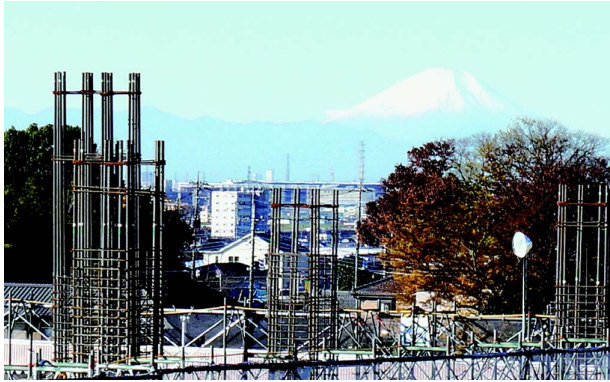
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

新東葛病院建設、順調に進む



3階を建てつつ4階の柱も作っている新東葛病院
(2014年12月5日撮影)



建設現場から見える富士山



新病院で導入予定のナースコールの説明会に参加する東葛病院の職員

大詰めの2015年

2016年6月のオープンに向けて、工事は着々と行われ、12月6日現在で3階まで進んでいます。建設で重要な年となる2015年の予定などを東葛病院建設委員会から説明いたします。

新東葛病院の建設工事が始まり、1年が経過しようとしています。工事の遅れ、事故、近隣からの苦情等も無く安全に順調に進んでいます。

2015年は建設が大詰めを迎えます。そこで今年の課題についてご報告いたします。

8階の柱が立ったころに上棟の予定

5月から6月にかけて、8階の柱が立ち上がったころに上棟式を行う予定です。ここまでは大変苦勞しながら建設を進めてきた、山下設計や前田建設、大成温

建設が進むにつれ地域の関心高まる

1月22日に地域への3回目の説明会を行い、新東葛病院の医療内容や工事の進捗状況などを報告いたします。

職員や東葛健康友の会の役員が行ってきた「地域へ出よう」は15回を超えました。新病院の近隣をはじめ、現在の病院周辺も訪問し、延べ1540件実施、499人の職員が参加しました。訪問の中で東葛健康友

の会の会員が増えていきます。訪問に際して、民医連の差額ベッド代の無い医療の提供について説明をする、「経営は大丈夫?」、「知らなかった」等の声が多く聞かれます。地域医療を掲げているが、まだまだ取組みが足りないと感じるところです。

新病院が展開する医療内容について

新規に取り組む医療は、新設の「緩和ケア病棟」です。緩和ケアには「がんの治療が出来なくなってきたら、がんの終末期に受ける治療」といったイメージがあります。

新東葛病院の緩和ケアは、がんを患われた方の痛み(告知、病状の進行に対する心の痛み、病状の変化による自分らしさ

の喪失感等)に対応する治療と考えています。

ワーキンググループの活動が活発

職員全体で建設に取り組むため、26のグループを作り活動しています。日常の医療活動が日々忙しさを増す中で、非日常の活動である建設運動を進めるのは大変困難な課題です。様々な工夫をこらし、グループ活動を活発にし「建設が自分の事」となる様に取り組んでいます。

新東葛病院は、地域に責任ある医療・介護をすると同時に、東京勤労者医療会全体を支えています。千駄ヶ谷地域の共同組織、地域の皆さまのご協力をお願いいたします。東葛病院建設委員会

松原立生

新東葛病院は平和と民主主義を守る重要な病院

代々木病院 院長 井上 均

明けましておめでとうございます。

昨年は、代々木健康友の会の皆さんの活躍のおかげもあり、地域との交流がまた一歩進むことが出来ました。友の会のサークル活動の種類も増え、地域包括ケアの充実に向けての足がかりとなっていくと思います。職員も一緒にさらに発展させていきたいです。

〇〇〇

医療や介護を取り巻く情勢はますます厳しくなり、新自由主義と軍事大国をめざす安倍政権の強権政治で、大企業は優遇され、より強大化し、中小企業は淘汰、軍事費は膨らむ一方で社会保障は切り捨てられています。今後、医療や介護の規制緩和が進められ、混合診療の解禁を取っかかりに、営利市場の場として医療介護が利用される方向に進んでいます。医療や介護が安心して受けられなくなる時代がすぐそこまで来ています。

平和の問題も重大です。私たちの平和憲法が改正され、戦争が出来る国に変えられる危険性があります。秘密保護法の閣議決定や集団的自衛権の強行採決は、これまでの自民党政権の重鎮達さえも危険な動きであると批判しています。

私たち民医連は、人権を尊重し、平和憲法のもと平和的に様々な国際問題を解決することが大切であると主張してきました。今後ますます、その声を大きくしていく必要があります。

〇〇〇

新しくなる、東葛病院は、私たち勤医会のセンター病院であると同時に、民医連運動を発展させていく拠点となります。また、東京民医連の研修のセンターの一つでもあります。

代々木健康友の会の皆さんにも色々な形で活用していただきたいです。後継者を旺盛に育てていきたいです。そして運動のセンターとして、強力な砦として築いていく必要があります。

平和と民主主義を守る重要な病院です。代々木病院の職員はもちろん、友の会の皆さんも東葛病院の建て替えに大きな期待を寄せていただきたいと思います。ご協力をよろしくお願い致します。

千駄の萱

2015年は母方の祖父が亡くなった70年目だ。1944年、祖父は出征し、

幼かった母と伯母、そして祖母を残し、小笠原諸島の硫黄島に配属された。熱帯のこの島は雨も少なく水源も乏しい。水が悪かったのか、硫黄島から届いた祖母への手紙で、祖父は胃腸薬を所望していた。さらには「死」と隣り合わせの状況でも、「あなた(祖母)の役割は無事に子供を産むことです」と当時叔父を身ごもっていた祖母を気づかした▼生還の希望も薄く、米軍の攻撃に耐えながらも家族や故郷を心配していた祖父の「思い」、1945年に戦死した「悔しさ」、残された家族の「気持ち」を想像すると胸がいっぱいになる。戦争は理屈ぬきでダメだ▼集団的自衛権、特定秘密保護法、憲法改悪等「時代」を70年前に逆行させようとする動きが強い。太平洋戦争では日本だけで310万人、アジアでは2000万人以上が亡くなったとされている。そんな悲劇を2度と繰り返させないため日本国憲法は作られ、9条で不戦と軍備の放棄を定めている。そう日本にはそれを履行し続ける義務がある。戦争をできる国にしようとする者たちに負けてはならないのだ。(た)